

# ISHIN

医心

隔月刊  
無料配布

2026.1

No.109

## 最先端の白内障手術を 被災地や途上国へ

金沢医科大学眼科学講座 主任教授

佐々木 洋

## ここで完結させ、 頼られる地域医療を担う

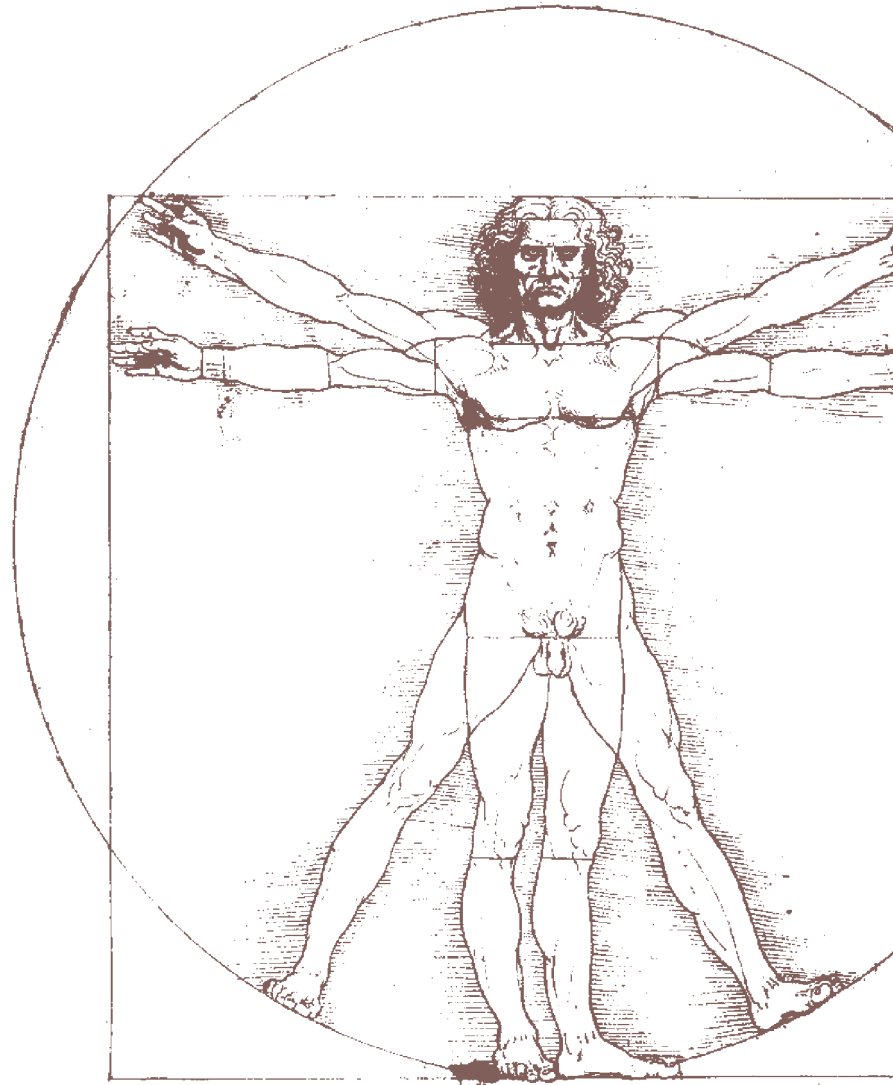
山内整形外科 院長

山内 健輔

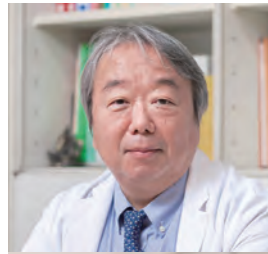
## 口腔がんと咬合再建、 新たな治療法に挑む

富山大学学術研究部医学系  
歯科口腔外科学講座 教授

山田 慎一



## CONTENTS



### 04 最先端の白内障手術を被災地や途上国へ

金沢医科大学眼科学講座 主任教授

佐々木 洋



### 12 ここで完結させ、頼られる地域医療を担う

山内整形外科 院長

山内 健輔



### 20 口腔がんと咬合再建、新たな治療法に挑む

富山大学学術研究部医学系 歯科口腔外科学講座 教授

山田 慎一



### 27 ISHIN column vol.3 奇跡的に生まれ変わった野村病院

医療法人社団尽誠会 理事長  
野村病院グループ CEO

野村 祐介



### 29 ファイネスの お聞かせください、ドクター！ DOCTOR'S VOICE

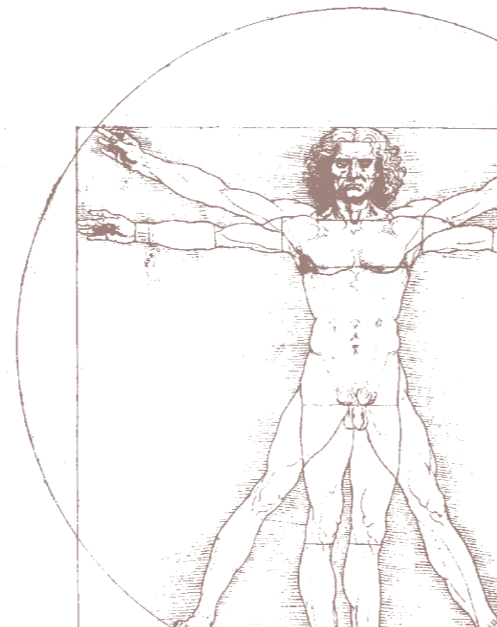
山田耳鼻咽喉科医院 院長

山田 健太郎

#### STAFF

Publisher 羽田和政  
Editor 坂口俊克  
Writer 上乗繁能/大廣 涼  
Photographer 藤森祐治  
Designer 吉田真人/西村恭子

発行/NPO法人 学産プロジェクト  
〒920-0213  
石川県金沢市大河端町東55番3号  
TEL 076-203-6613  
e-mail:info@project-ishin.net



## 「建物の主治医としての自覚」 —これが、みづほのこだわりです。

山田耳鼻咽喉科医院 様



外観



受付・待合室



診察室

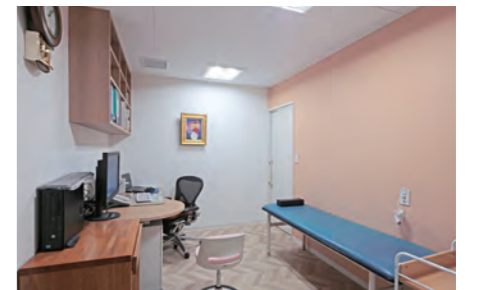
しまざき こどもクリニック 様 (増築)



外観



受付・待合室



診察室

## 独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に  
医療経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での提案営業スタイルを確立し、病医院や福祉施設の開業を支援しています。これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、土地探し、施設提案、事業運営までを専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。多くのドクターが抱かれている開業についての不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと進んでいただけるお手伝いのできるかと考えております。

### 医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和8年2月14日(土)・15日(日)  
10:00~17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



## 木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。  
木造建築の新しい選択肢、「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合架「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

- 建築コストの削減
- 建築工期の短縮
- 高い耐震性と耐久性
- 建物の軽量化
- 設計自由度の高さ
- 大空間の木造建築

新しい建設サービスの展開  
**mizuho** みづほ工業株式会社

本社 / 〒921-8864 石川県八日市丁11662番地 TEL: 076-249-7001(代) ホームページ / <https://www.mizuho-co.com>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

● 医療施設

● クリニック

● ドクター

● 薬剤師

● 看護師

## 地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は  
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える  
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

● 栄養士

● 介護士

● ソーシャルワーカー

● ケアマネジャー

● 民生委員

● 地域の方々

● 在宅高齢者施設

● 民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

**icc** 株式会社  
石川コンピュータセンター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地  
TEL (076) 268-8315 (代) FAX (076) 268-7145  
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■ 本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町八6番地1  
TEL (076) 268-8311 (大代表)  
<https://www.icc.co.jp/>

■ 支社 / 東京・名古屋  
■ 支店 / 大阪  
■ 営業所 / 富山・福井

# KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY

# 佐々木 洋

手術室に入るとわかりますけど、私の手術はあつという間に終わります。顕微鏡を使った手術で、早ければ4分から5分。次の患者さんが後ろの部屋で待機していて、終わるとすぐに入れかわり手術室に入ります。大学病院は、入れ替えに時間がかかるのでそう多くはできませんが、外の病院なら1時間に8〜10件ぐらいは普通です。長年、岩手県の金石のみ病院にも通っていますが、そこでは午前中に40件くらい手術しています。

## 白内障手術で40代の視力

のっけから、自らが執刀する白内障手術についてそう打ち明ける。佐々木洋教授が手がける白内障の手術は、年間約3000件。日本では1年で約180万件以上の白内障手術が行われるそうだが、なかでも佐々木教授の手術件数は群を抜いて多い。そのスピードと安全かつ正確な手術の背景には白内障治療の進化がある。

白内障は、目の水晶体が白く濁る病気で、高齢になればなるほど有病率が上

最先端の白内障手術を  
被災地や途上国へ

DEPARTMENT OF OPHTHALMOLOGY

HIROSHI SASAKI

がっついていきます。早ければ40代で約5%、80才以上ではほぼ100%の人になんらかの水晶体混濁が見られ、視界がぼやけたり、かすむようになります。カメラのレンズのような役割を果たしている水晶体が白く濁ってしまうと、元に戻すことはできません。

最も有効な治療法は、濁った水晶体を人工の眼内レンズに交換することです。この白内障手術が近年、大きく進化しており、いまや高齢の方で90歳〜100歳を超えて手術するケースも珍しくありません。局所麻酔で体への負担が少なく、手術の安全性とレンズの性能が格段に向上しているため、患者さんは安心して手術を受けられます。

最近では「見えるようにする」手術から「屈折矯正・視機能最適化」手術へと変わってきています。従来までは、見えにくくなった目を手術で治して、メガネを掛ければまた見えるようになる矯正視力を超える手術でした。それがいまは、ただ見えるだけではなく、裸眼視力を良くする屈折矯正白内障手術と、老視矯正白内障手術が主流になってきています。平たく言えば、白内障手術をすることで視力が回復し、老眼もなくなってメガネをしなくても40歳ぐらいの目に戻れるわけです。

レンズの費用は自己負担となります。金沢医科大学病院では、たとえば多焦点眼内レンズで手術を受けた場合、片目で約30万円、両目で約60万円の費用負担となります。一見、高額に思われますが、手術によってメガネやコンタクトレンズが不要になれば、長期的な費用対効果はそう悪くないと思います。

二つ目の要因は、患者さん一人ひとりの状態に合った最適な治療法を選ぶために「見え方の質」を判定する検査や評価方法が進んだことです。

白内障には80ぐらいの種類があります。手術適応の基準についてガイドライン上はとくに決められていませんが、当院では見え方や色のコントラスト、老眼の進行度、メガネを遠くに合わせた状態で、30cm〜1mがどの程度に見えるかを、片目と両目で全部検査します。そのなかで、患者さんがどの種類や型の白内障に当てはまるかを評価します。

具体的には、視力やコントラストの低下、屈折変化、羞明(まぶしさ)、単眼複視などの症状を、水晶体混濁から説明できるかを確認します。診断は主病型と副病型をしっかりと評価し、そのうえで手術適応の有無を判断します。



メガネなしで近くも遠くも見えるようになって、体への負担や合併症も少ない。それが最近の白内障手術の特徴で、患者さんのQOL向上にも大いに役立っています。

### 見え方の「質」を判定

要因の一つは、眼内レンズの進化です。従来の矯正視力を上げる手術では、特定の距離にしかピントがあわない単焦点レンズが一般的でした。これは、遠くに焦点を合わせたレンズを選ぶと、近くで読書などをする時には老眼鏡を使うし、逆に近くに焦点を合わせると、遠くを見るためのメガネが必要になります。

それが近年は、遠く・中間・近くの複数の距離にピントを合わせられる多焦点眼内レンズや、遠方から中間距離まで連続的に見える焦点深度拡張型(EDOF)レンズ、さらには乱視にも対応するトリックレンズなどの普及により、患者さんの状態に合わせて最適な人工レンズが選べるようになっていきます。

ちなみに、単焦点レンズや単焦点EDOFレンズによる手術は保険適用ですが、多焦点系のレンズはほとんどが選定療養として、手術費だけが保険適用でレ

### ビジョンシミュレーターを開発

眼内レンズの選択に際しては「ビジョンシミュレーター」を導入しています。眼内レンズの種類による見え方の違いや、多焦点レンズを使用した場合の光の具合などを大型モニターで再現し、手術前に確認するシステムです。

眼内レンズの選択には、患者さんの日常生活の視距離、とくに最も視る時間が長い最頻視距離を確認し、生活で何が大事かを把握する必要があります。たとえばパソコンや携帯の使用頻度はどうか、パソコンはデスクトップかノートパソコンか、近くまたは中間視が必要な趣味はないか、夜間運転や低照度での作業があるかないかなど。それらに応じて、両眼での全距離視力をテストし、どの距離が見えて、どの距離に不自由を感じているかなどを確認します。

ビジョンシミュレーターを使用すると、患者さんは術後に裸眼で中間距離や近距離がどのくらい見えるか、見えにくいか、十分理解しないまま手術を受けることはまずありません。患者さん自身が、最適な眼内レンズを選択できる画期的なシステムだと思っています。

ビジョンシミュレーターは、2020

年9月に私が理事長を務めるNPO法人で開発し、金沢医科大学病院が全国に先駆けて使用を開始しました。すでに全国で100を超える医療機関で採用されており、今後はアメリカの病院でも使用される予定で、2026年早々に上市される計画です。

もう一つ、当院では低眼圧で手術を行う低灌流圧白内障手術を行っており、その有用性に適した最新の手術機器「UNITVCS（以下UNITY）」を導入しています。UNITYは、従来までの水平方向だけでなく、垂直、縦方向にも振動し、これまでの2倍以上の効率で水晶体の核を破碎、吸引できます。進化した核の硬い難症例であっても、低侵襲の手術が可能です。

低灌流圧手術は、術中の患者の疼痛が少ない、術後に早期の角膜浮腫が少ない、術後の炎症が少ないなどのメリットがあり、UNITYの採用と相まって良好な治療成績を上げています。

白内障の国内第一人者である佐々木教授は、紫外線による眼障害などの疫学調査、研究でも高い実績を上げている。特に疫学調査は、国内では地元石川県をはじめ鹿児島県、沖縄県、海外ではイスラエルを摘出し、白内障手術をすることも可能です。今後この分野で国内No.1をめざしたいと思っています。

白内障を予防するのはなかなか難しいですが、私の研究室では老眼の硬くなった水晶体を柔らかくする点眼治療薬の開発にも取り組んでいます。この研究を企業と共同開発できないかについても検討しています。

疫学調査については、新たに南米のペルーを考えています。ペルーは、紫外線が強く暑いジャングルと、同程度に紫外線が強く涼しい高地の気候条件を備えていて、暑さと寒さという両極端の気候風土の中で暮らす人たちの、白内障との関連性などを是非、調査、研究したいと思っています。

アフリカや南米などの途上国では、医療が整っておらず、白内障など目の病気で失明している人がまだたくさんいます。疫学調査はもとより、白内障自動診断機器の開発、手術指導、眼科病院の設立など、いろんな支援の形を通じて貢献していきたいと思っています。

将来的には、ペルーで病院を設立し、白内障で苦しむ多くの人たちの「光り」になれる。私自身の夢であり、ライフワークとして取り組んでいきたいと思っています。

Profile

佐々木 洋 (ささき ひろし)

金沢医科大学眼科学講座 主任教授

- 1987年 金沢大学医学部卒  
自治医科大学眼科学教室 入局
- 1991年 米オークランド大学眼科研究所 研究員
- 1993年 自治医科大学眼科学 助手
- 1996年 金沢医科大学眼科学 講師
- 2005年 金沢医科大学眼科学 主任教授
- 2018年 NPO法人紫外線から眼を守るEyes Arc 理事長
- 2023年 金沢医科大学病院 副院長



HIROSHI SASAKI  
Kanazawa Medical University

ンド、シンガポール、中国、台湾、アフリカのタンザニアなどを対象に行っており、白内障をはじめとする眼障害と紫外線との関連性を裏付ける貴重なデータになっている。一方、岩手県の釜石のぞみ病院はじめ、能登地区の穴水総合病院や宇出津総合病院などの被災地にも赴き、白内障治療を通して地域との医療連携や関係づくりにも力を注ぐ。

紫外線関連眼疾患の疫学調査

疫学調査を始めるきっかけは、私が自治医大から金沢医科大学に移籍した1996年ごろにさかのぼります。それ以前の1990年ごろから、紫外線被曝が白内障のリスクであることが疫学研究で報告されていました。金沢医大でも環境省関連の研究で、気象条件の異なる地域での紫外線と白内障に関する調査を開始し、私が担当することになったのです。

対象地域は、当初は石川県輪島市門前町、アイスランドのレイキャビク、シンガポールの3地域でした。白内障の有病率は、シンガポールが最も高く、ついで門前、レイキャビクの順で、シンガポールとレイキャビクでは、白内障の発症年齢に約15〜20年の差がありました。

それ以降、海外では中国・遼寧省の瀋陽市、山西省の太原市、海南省の三亜市の農村部、台湾の台中市、アフリカのタンザニア、国内では門前の調査を継続しつつ、鹿児島県喜界島、沖縄県西表島などで成人を対象とした調査を新たに行っています。小児における眼部紫外線被曝の影響についても調べており、石川県、沖縄県、台湾、タンザニアでそれぞれ実施しています。

これまで調査した症例は、2万人以上に及びます。特徴的なのは、高温地域で核白内障が非常に多く見られたことです。すなわち紫外線の強い地域、高温環境が白内障のリスク要因になることが、調査から明らかになったのです。

小児期の紫外線被曝についても、沖縄県西表島で、高校卒業まで沖縄に住んでいる人と、移住者とを比較調査した結果、前者の方が翼状片のリスクが約6倍、核白内障が約8倍高いことがわかり、小児期からの紫外線対策が極めて重要であることを示しています。

佐々木教授は、紫外線との因果関係だけにとどまらず、熱中症と白内障との関係調査をはじめ、2012年から東京電力福島第一原子力発電所の緊急作業に従

事した作業員の放射線被曝による健康への影響についても、長期にわたって検証している。低線量放射線被曝と白内障発症との関連性などを追跡しており、日本眼科学会や日本白内障学会にも協力を依頼し、全国80施設において調査を継続中だ。最先端の白内障手術や疫学調査で、国内外を駆け巡ってきた佐々木教授の次なる挑戦は、どこに向かうのか？

途上国で病院を設立

多焦点眼内レンズを使った白内障手術の実施率は、国内ではまだ4%と少ないので、これを世界レベルの10〜15%にまで普及させたいと考えています。それとビジョンシミュレーターのなかに、眼内レンズ（IOL）を自動選択できる機能を付加して、データや数値を入力すれば、どの眼科でも自動的に患者さんに最適なレンズを選べるようにできないかも検討しています。

ICL手術 (Implantable Contact Lens) も始めたいと思っています。角膜を傷つけずに、目に小さなコンタクトレンズを挿入して、近視・遠視・乱視を矯正する視力矯正手術です。度数が強い人でも安全に受けられ、白内障を発症したら、I

# ドラッグストア併設で 理想の開業を!

## DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成  
 開業までのスケジュール作成  
 開業地の選定、診療圏分析  
 事業計画の策定  
 融資の打診及び交渉  
 設計、内装業者紹介及びアドバイス  
 医療機器選定  
 税理士、公認会計士の紹介  
 広告相談  
 従業員募集、採用、教育の補助  
 開設手続き  
 開業後の経営支援、拡大展開  
 継承支援



DCPソリューションは  
 豊富な経験とネットワークを持つ  
 先生方のよきパートナーとして  
 開業支援サービスを提供しています。

開業の事例や先生方の声をご覧ください



0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

### 拠点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号  
ヒルトップ神田ビル
- 中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号  
新大阪第5ドビル13階
- 北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

1998年 金沢大学医学部医学科卒業  
 金沢大学医学部整形外科入局  
 金沢大学大学院医学研究科入学  
 1999年 厚生連高岡病院勤務  
 2000年 公立松任石川中央病院勤務  
 2001年 横浜栄共済病院勤務  
 2003年 カルフォルニア州立大学サンディエゴ校、  
 アンチキャンサー社に留学  
 2006年 金沢大学医学部大学院博士課程修了  
 医学博士授与・金沢大学整形外科助教  
 2008年 福井県立病院整形外科医長  
 2010年 整形外科専門医取得  
 2011年 山内整形外科副院長就任  
 2014年 山内整形外科院長就任

# ここで完結させ、 頼られる地域医療を担う

山内整形外科 院長  
**山内 健輔**

## 開業以来の地域密着 スタイルを進化させる

山内整形外科は大学や美術館などが近くにある福井市大宮で、昭和52年（1977年）に開業した。整形外科を中心とした有床診療所で、山内健輔氏が院長になってから10年が経つ。

「私が福井県立病院からここに戻ってきたのは2011年。それまでは大先生（院長の父で理事長の山内四朗氏）が外来診療を中心に1人でやっていた。オペ室もありましたが緊急手術などには対応できる状態ではありませんでした。オペ室看護師育成のために看護師を県内外の病院に連れていき、滅菌や物品の配置の仕方などを勉強してもらったところから始めました。1年後には病院を建て替え、その際には人工関節の手術を想定してクリーンルームを作りました。人工関節の手術となると習う先もなかなかありませんので、神戸市の人工関節手術を得意とする病院へスタッフを連れていき、滅菌からリハビリ、病棟の体制など、多くを学ばせてもらいました」と院長の山内健輔氏は話す。麻酔科医が非常勤で週に2日来ており、整形外科のほとんどの手術ができる体制を敷く。19の病床を

持っているからこそできることは多い。

山内整形外科にはユニークな特徴がある。それはイベントが多いことだ。作品展や一月遅れのひな祭りなど、長年続けているものもあれば、落語会や人工関節の手術をした患者と一緒に出かける遠足など、山内健輔氏が院長になってから始めたものもある。また年に1回、『Wa』という80ページほどの文集も発行していて、院内のトピックやスタッフ紹介などもあり、これを読めば病院のことがよくわかる。1000部ほど発行して、院内などで無料配布している。文集の編集は部署をまたいでスタッフが持ち回りで行うことで、他部署のスタッフとの交流を盛んにするメリットもあるという。

## できるだけ早く

## 結果を出すことが診療方針

たくさんイベントや文集発行などから、地域に親しまれる病院であることがよくわかる。地域での役割について尋ねてみた。

「整形外科の治療に関してはここでできるだけ完結させることを意識しています。特別なスキルや器械がないとできないことを除いて、たいいていの疾患には対

YAMAUCHI KENSUKE



応できます。そして初診の患者に対しては、できるだけその日にうちに診断をつけて、その日のうちに治療をスタートさせることを心がけています。大きな病院だとMRIが混んでいて、検査は1週間後となることもよくありますが、当院では遅くても翌日か翌々日にはできますし、必要であればエコーで対応することも可能です。また、局所の問題は局所で治すという考えから、たとえば五十肩の患者さんなど、エコーを用いた局所の注射などで治すことも多いです。薬と湿布だけで様子を見るのではなく、できるだけ医療機関でしかできないことを行い、その日のうちに『楽になった』を実感させてあげたいと思っています。また、たとえば腰痛で来院して、注射までいいと言われたときは薬と湿布を出しますが、それだけではなく、『ちゃんと運動をしましょう』などの今後の生活における注意点などのお話をするので、いわゆる『おみやげ』を持って帰ってもらえるように気を付けています。肥満であったら痩せましょう、と話すこともありますし、食事の管理ができていなければ、当院は管理栄養士がいるので、食事指導の話もできますし、仕事が忙しいから運動ができていないという人には、隙間時

### 自分から動ける 層の厚いスタッフが集まる

院長の気持ちを受けて、実践するスタッフも大変だと思う。そのために何か工夫をしていることはあるのだろうか。

「看護師は病棟と外来にいますが、持ち場を固定するようにしています。外来にいる人はずっと外来にいて対応の仕方を熟知していますから、『運動していただけますか？』『ちゃんと内服できていますか？』など、私が言おうとするのを先に聞いてカルテに記載してくれています。病棟の方も同様で、特別に指導しなくても、患者の状況を把握して行動してくれます。私の方からこうして欲しいということはほとんどありません」

病棟にはきれいにディスプレイされた本棚がある。毎年、「本屋大賞」にノミネートされた本が並べられ、それぞれの本にはおすすすめポイントが書かれた看護師書きのポップが添えられている。書きためたポップ（60〜70冊分）はファイルに取められて、すべての病床の傍に置かれている。入院患者はそれを見て、読みたいと思った本があれば看護師に頼んで持ってきてもらう、そんなシステムだ。「元々は年季の入った本棚だったので、



間を探して、少しでもいいから運動習慣をつけてもらえるように指導することもあります。ただ痛みを治療するだけではなく、リハビリや運動などの紹介をして、痛みの根本を改善するための日常生活指導などの『おみやげ』を渡すことで、治療効果を底上げする効果があると思います。そして入院・手術となっても、病棟やリハビリのスタッフが手厚い対応をしてくれます。地域への密着度は他の病院よりも濃いと自負しています」

医療行為をしているだけでは開業医はダメだという院長。

「大きい病院はそれなりの技術やマンパワーがあるのでそれでいいのですが、開業医はプラスチックで患者満足度を上げるような工夫をしないとダメです。当院ではリハビリのスタッフが一所懸命作った運動のやり方を記したレジュメも用意しており、必要に応じてお渡ししています。このように患者さん一人ひとりに手間暇をかけて、手厚くしているつもりです。だから外来は結構疲れますよ。1日200〜300人は来ますので」



それをどうにかしたいなど思っていたんです。そうすると看護師が本棚や観葉植物を買ってきて、きれいにしてくれました。気がつくとスタッフが何も言わずともやってくれる、自分たちで考えてやる、そういう風に分たちで考えて行動できる体制がいいと思います。規模が小さな病院でも、これからはトップダウンでやっていける時代ではないと私は思っています。それぞれのスタッフが、自分が何をすれば患者満足度を上げられるか、職場環境が良くなるか、もしエラーがあれば、それをどうしたらいいのか、そういうことを自分たちで突き詰めていくことが大事だと思っています」

普段やっている仕事をただこなすだけではなく、1日1つ、小さなことでもいいので、気づきがあつて、それを経験として積んでいって欲しいと考え、QC活動にも取り組んでいる。

### 整形外科医の醍醐味は 短期間で結果が出ること

実は高校生の時は勉強が苦手で、とても医学部に行けるような成績ではなかったという。ただ、数学だけは得意だったそうだ。

「数学の教師になりたいと言ったら両親に怒られて(笑)、一浪して金沢大学の医学部に合格しました」

新人医師の頃は、外来が忙しすぎてカルテをほとんど書かずに会計に送ったから、あとで先輩に怒られた話や、手術の計画を立てる際に、その時は頼れる先輩が近くにおらず、父親にレントゲン写真を送って相談に乗ってもらったり、「いま思えば恥ずかしかったり頑張ってたな」と思う話はいっぱいありますよ」と笑う院長。整形外科医になってよかったなと思う瞬間についても聞いてみた。

「基本的に自分で手術をして治っていくのがいいですよ。短期間で結果が出るところが整形外科の医者になってよかったなと思うところですよ。他の病院で治らないと言われた神経痛を、エコーを用いたハイドロリリスで治せたときなど、思わずガッツポーズをしたくなったことがあります」

多忙極まる院長だが、休日は山登りに出かけることが多いという。

「もともとはキャンプをしたかったと思って道具も揃えました。ところが、土曜の午後は手術なので、考えたら2日間休みになることがほとんどないことに、道具を揃えてから気がついて(笑)。その

歩けなくなってしまう患者さんが来て、私のところでは原因がわからず、神経内科の先生に診てもらったら精神疾患が原因だと指摘され、専門病院に入院して治療を受けたところ、普通に歩けるようになった症例を経験しました。職場でのパワハラが原因だったようです。これは最たる例ですが、整形外科的には原因が分からないことに、実はメンタルが絡むことがあるということをしみじみ感じ、心理的などころを勉強したいと思うようになりました」

このようにオフも結局はオンにつながることが多く、日夜ひたむきに医療に向き合っている。「じっとしてられない人」とよく奥様からも言われるとか。このような院長の姿を見ているからスタッフも率先して動いてくれるのではないかと、そのように感じる。

**患者さんを思い、医療全体の精度アップを図る**

今後は医療技術だけでなく、看護のケアや入院中の食事など、院内全体の精度をもっと上げていきたいと話し、「当院はスタッフの層が厚いので、突き詰めればさらになんでもできると思います」と



代わりにいまは、近くの5時間くらいで行って帰って来られる山に登っています。お気に入りには下市山(標高260m)や赤兎山(標高1629m)です。山の上下を食べるかにこだわっていて、小さい鉄板を持って行き焼肉をしたり、食後は本格的にコーヒーを淹れたりしています。ずっと病院に閉じこもって仕事をしている、開放的な山みたいなのに憧れるのかもしれないね。あと最近ではサウナにもよく行きます。夜にサウナに行けるのがいいんですけど、でも整わないんです。仕事のことがずっと考えてしまうので……。山登りも同じで、どうしてもモヤモヤしてしまうことがあるときは、急な上り坂が続く、負荷の大きな山に登ります。きつくて何か考えている余裕なんてありませんから」

最近、リンパ浮腫治療の資格を取得した院長。それで資格試験の勉強をするのが面白くなり、勉強にも没頭しているという。いまは「心電図検定」の勉強していて、それが取れたら「スポーツ医学検定」の取得を目指すそうだ。

「その後は少し難しいんですが、『心理学』の資格を取りたいと思っています。整形外科では精神的な不安が痛みに関係することがあります。以前、ある日突然

も。周術期の看護を手厚く行うことで患者の不安を軽減したり、術後の回復を早め合併症を予防するERAS(イラス・術後回復強化)という管理方法を導入して、できるだけ手術を受ける患者に非日常を味わせないように全ての手術に対して行っている。このように診療の層を厚くしていきたいと話す。

「いまは理事長と2人でやっています。私ができないことをカバーしてくれる先生と一緒に仕事ができたらさらに層も厚くなりますので、うれしいです」

福井県では有床で新たに開業することはできません、そうなることには限られてしまう。さらにここには自ら動けるスタッフがたくさんいる。「そんな環境が気に入って一緒にやってくれる医師が来てくれたら」と話す。

患者ファーストを謳い、院長やスタッフの挑戦はこれからも続くが、地域にとつてさらに頼りになる有床診療所へと着実に進化をしていくに違いない。

福井県医療情報誌「neo」6号より  
記事転用

健やかな未来のために。

真のソリューションを実現する  
価値あるサポート。

丸文通商は、医用機器と科学機器の供給を通じて、人々の健康維持と新しい産業の創造に貢献しています。取り扱いメーカーとの緊密な連携により最新の製品情報をスピーディに提供するとともに、自社のカスタマー・エンジニアによるメンテナンス体制を構築。真のソリューションを実現する価値あるサポートを展開しています。

# 医療を支える。 人と地域の未来のために。

私たちが幸せな人生を歩むために、医療は、必要不可欠です。  
しかし、世の中の変化とともに、医療は今、多くの課題を抱えています。

医療人材の採用から育成、キャリア支援、仕組み作りまで  
私たち MCS は、HR（ヒューマンリソース）の分野で、医療の課題解決に向き合います。  
医療関係者、生活者、地域社会、その未来のために。



## 医用機器部門

各種医用機器・システムの提供はもちろん、マーケティングに基づくアドバイスを行うなど、メディカルコンサルタントとして病院経営全般をサポートしています。



## 科学機器・産業機器部門

絶えまなく技術革新を続ける科学機器の最新情報を幅広く収集しながら、ユーザーニーズに応じた、最適なマシン・システムをコーディネートしています。



## 技術・サービス部門

メンテナンスや修理などのアフターケアによって、ユーザーをサポートするとともに、オリジナル製品や各種システムの開発にも取り組んでいます。

明日の健康と新産業創造のパートナー

**丸文通商株式会社** <https://www.marubun-tsusyo.co.jp/>

金沢支店  
〒920-0385 石川県金沢市松島一丁目40番地  
TEL 076-269-1880 / FAX 076-269-2522

富山支店  
〒939-8221 富山県富山市八日町247番地41  
TEL 076-429-7190 / FAX 076-429-3277

福井支店  
〒918-8236 福井県福井市和田中二丁目907番地  
TEL 0776-23-8070 / FAX 0776-23-9500

「地域」と「医療」の架け橋として ヒューマンリソースの問題をトータルで支援する

スギ薬局グループ



詳しくは WEB へ



# 口腔がんと咬合再建、新たな治療法に挑む

富山大学学術研究部医学系 歯科口腔外科学講座 教授

山田 慎一

富山大学附属病院の歯科口腔外科は、口腔や顎顔面領域などに生じる難治性の高い疾患を数多く担当する。診断から治療、リハビリによる機能回復まで総合的な歯科医療を提供する専門診療科を取材した。

## 口腔と顎顔面の専門診療科

大病院における歯科口腔外科は、一般の歯科医院では対応が難しい高度で専門的な治療が求められる。主な対象は、口腔内や顎顔面領域に生じる疾患であり、腫瘍や顎変形症、顎関節疾患、外傷や炎症、先天異常、デンタルインプラントによる咬合再建など多岐にわたる。

「富山の傾向として、高齢の口腔がん患者さんを治療する機会が増えていきます。あとは顎変形症など噛み合わせが悪い患者さんに対する顎矯正手術です。通常であれば、矯正歯科での歯列矯正のみで治療できますが、当院で行うのは顎の骨格から治療するケースで、骨を分割して噛み合わせを改善しています。また、腫瘍切除後などではデンタルインプラントによる咬合回復などで、術後のリハビリなどを含めて行っています。歯科の知識および美意識の向上や、手術や機器

の進歩などもあってより安全に改善することも重視されてきています」

そう説明するのは、歯科口腔外科の山田慎一教授だ。なかでも重要視されるのが、全身疾患がある患者のリスク管理だ。心臓疾患や糖尿病、がん治療中の患者をはじめ、高齢者の中には認知機能や嚥下障害、誤嚥性肺炎などの不安要素を抱えた患者も少なからずいる。そうしたケースに備えて、院内の各診療科との連携は欠かせない。

「口唇口蓋裂であれば小児科や耳鼻咽喉科頭頸部外科との連携になりますし、口腔がんは放射線科や放射線治療科、腫瘍内科、形成外科、耳鼻咽喉科頭頸部外





科とも連携します。心臓疾患や糖尿病、がん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。何らかの疾患がある場合は、当院のように専門診療科と常時連携できる環境が整っていることが強みであり、患者さんの安心にもつながると思います」

顎矯正手術のように、一般の矯正歯科と密接に連携、協力する例もある。顎矯正手術の場合は、矯正歯科での歯列矯正を先に行う。矯正後、手術を行うこととなり、「近年、中高年になってから手術をする例も増加している」そうだ。

### 肺炎や感染症リスクを抑制

いずれにしても「医科歯科」連携が重要で、山田教授は「特にがんの治療においては必須」と、その重要性を口にする。

「医科の全身麻酔の手術で、治療中に免疫力が下がって急性転化して炎症が再燃したり、感染症がひどくなる場合があります。それによってがん治療が進まなくなってしまうことから、私たち歯科医がかかわり、たとえば歯周病など慢性的な感染巣を除去します。これは周術期口腔機能管理といって、2012年に保険

適用になってから広く行われるようになっていきます。口腔ケアや咬合、咀嚼の機能を維持して管理する行為で、口腔内をきれいにすることによって口腔内の細菌を減らし、感染症のリスクを抑える役割を果たしています」

口腔機能管理をすることで、術後の肺炎リスクや抗生薬の処方量が減少するなど医療費の削減にもつながっている。同様に「予後栄養指数の数値が術前術後も変わらないことから、術後早期に食事ができて栄養が落ちないなどの利点もある」と、山田教授は指摘する。術後の合併症を防ぐという観点からも、歯科や口腔外科での周術期口腔機能管理や医科歯科連携が、一定の効果をもたらしているのだ。

「私たち医学部の歯科口腔外科は、医学部の教育機関に所属するので、医学生や看護学生にも医科歯科連携の講義をして、口腔機能や口腔細菌と全身の関連性や重要性を早い段階から身につけてもらうようにしています」

ちなみに山田教授は、感染症の分野では国内屈指の臨床、研究拠点といわれる長崎大学の出身で、その後、信州大学に移り、2022年に富山大学附属病院に赴任した。この間、がん治療における術

後性肺炎の抑制に口腔ケアが寄与する科学的根拠などについて研究してきた人でもある。そうした研究や実績をもとに、「全身疾患と歯科口腔との関連性を示す新たな知見や科学的根拠を見つけ出すことも、大学病院の歯科口腔外科の役割の一つ」だと主張する。

### 北陸の歯科口腔外科で初の光免疫療法を実施

その一方で、先進的な治療にも力を入れている。なかでも注目されているのが、口腔がんに対する光免疫療法だ。歯科口腔外科で取り組んでいるのは、アキラルクス(Acalux)を用いた光免疫療法で、従来からあるがん細胞の表皮成長因子受容体に結合する薬剤(分子標的薬)に光感受性物質が付加された薬剤を点滴し、その後レーザー光をあててがん細胞を選択的に破壊する治療法だ。

この治療法は、切除不能で局所再発の頭頸部がんや口腔がんを対象とし、手術や化学療法、放射線治療など既存の標準治療で効果がなかった場合に適用される。健康な細胞へのダメージが少なく、従来の治療より患者の負担が比較的軽いとされている。

「私の専門が口腔がんをはじめとする口腔腫瘍ということもあって、専門的な分野を発展させるには、最先端の治療が必要だと考えて、頭頸部がんを導入されている光免疫療法に取り組んでみたいと前から思っていました。それで日本口腔腫瘍学会や、この治療法を日本に広めた薬天の三木谷会長と一緒に厚生労働省などにも強く働きかけていただき、2023年12月から歯科口腔外科でも使えるように保険収載された経緯があります」

山田教授は、日本口腔腫瘍学会のアカラルクス治療運営委員会の中部地区を統括する委員を務めるなど、この治療法を牽引する立場でもあり、「対象となる症例が再発病変などで、切除不能かどうかを吟味し、見極める」役割も果たしている。

富山大学附属病院歯科口腔外科では、2025年4月、再発病変があつて切除不能な口腔がんの60代の患者に、北陸の歯科口腔外科では初めてとなる光免疫療法を実施した。同じく同年11月には、70代の患者に二例目の光免疫療法を行っている。

「二例目の患者さんは、病変の縮小が見られています。重篤な副作用としては痛みが強いとか、喉頭浮腫と言って喉の



Profile

山田 慎一 (やまだ しんいち)

富山大学学術研究部医学系 歯科口腔外科学講座 教授

- 2000年 長崎大学歯学部卒業
- 長崎大学大学院 歯学研究科 口腔顎顔面外科学専攻入学
- 2004年 同上修了 学位取得 博士(歯学)
- 長崎大学医学部・歯学部附属病院 第一口腔外科 助手
- 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔顎顔面病態外科制御学分野 助手
- 2007年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔顎顔面病態外科制御学分野 助教
- 2009年 長崎大学病院 口・顎の外科室 講師
- 2011年 カロリンスカ研究所 分子細胞生物学講座
- 2015年 信州大学医学部附属病院 特殊歯科・口腔外科 准教授
- 2022年 富山大学学術研究部医学系 歯科口腔外科学 (総合口腔科学)講座 准教授
- 2024年 富山大学学術研究部医学系 歯科口腔外科学 (総合口腔科学)講座 教授



最先端の治療に目を向ける

口腔がん治療を歯科口腔外科が担当する意味や役割は、どんなところにあるのか。「歯科医院で口腔がんが発見されるケースが多いことです。一般の歯科医院から紹介を受ける数も歯科口腔外科は多いの

が、患者さんの状態によって耳鼻咽喉科頭頸部外科の先生に相談したり、密接に連携することもあります。もう一つは、噛み合わせの回復です。実はこれが、歯科口腔外科の最大の「使命」と言ってもいいかもしれません。広範囲顎骨支持型装置、つまりデンタルインプラントを使った入れ歯やブリッジ(つながった歯)で、咀嚼機能、咬合を再建するのが、歯科口腔外科になります。いずれも現在では保険適用になっていますが、これは歯科医師でしかできない治療なので、まさに私たちの力量と真価が問われる領域になります」

最先端の治療に目を向ける。山田教授は、北陸の歯科口腔外科では初の指導医で、中部地区でも初めてだという。

口腔がん治療を受けるための施設基準として、日本口腔腫瘍学会の研修施設であり、口腔がん専門医の資格を持った治療医・指導医がいることが義務付けられている。光免疫療法の治療医は、口腔がん専門医の資格とともに光免疫療法についての講習会を受講すると治療を行う資格が得られる。山田教授は、北陸の歯科口腔外科では初の指導医で、中部地区でも初めてだという。

咬合再建は、形成外科との連携で主に足の腓骨を移植して行うもので、経過観察を行い再発がないことを確認した後インプラントを入れ、それを土台にしてブリッジや入れ歯を使って咀嚼できるようにする。しかし「骨を使った再建術は、一般的には進行がんになるので、ガイドライン上は放射線治療を行うことも多い」

「私がめざしているのは口腔がん治療の開発です。安心、安全で低侵襲な治療で、高齢者に対してはQOLを落とさない治療をしていきたいと思っています。その一つとしていま取り組んでいるのが動注化学療法です。カテーテルをがん組織の栄養動脈に直接挿入し、高濃度の抗がん剤をピンポイントで注入する治療法で、通常の化学療法と比べて、がんへの効果を高めつつ全身への副作用を抑えるのが特徴です。高齢者の方でもQOLを落とさずに治療ができるものとして、まずは科学的根拠を持たせる臨床研究をして科学的根拠を確立したいと思っています。また、高齢者機能評価を用いた研究により治療選択の基準も確立したい」

## 奇跡的に生まれ変わった野村病院

～危機から脱却し慢性期医療の新たなモデルを築く軌跡～



医療法人社団尽誠会 理事長  
野村病院グループ CEO

野村 祐介

### 地域と医療従事者に選ばれる挑戦

全国の病院が経営に苦しみ中、かつては野村病院も極めて厳しい状況にあったのは間違いない。しかし、3つのステップからなる改革を進めた結果、病院は奇跡的とも言える再生を遂げた。現在では「地域から、そして医療従事者に選ばれる病院」として、専門誌などから注目されるようになったのだ。

本連載は当院が危機から脱却し、選ばれる病院へと生まれ変わるまでの軌跡を振り返るものである。医療現場と経営の両面から見た「選ばれる病院」の条件と、今後の医療経営への示唆について考察する。

### 第3回：慢性期病院として 生き残るための挑戦（後編） —入院料1への挑戦と改革の成果

これまでの第1回・第2回では、「区分2・3」患者の割合向上を起点に、慢性期治療病院への機能転換を図り始めた当院の挑戦を紹介した。第3回では、その後の改革と入院料1への完全移行の軌跡について述べたいと思う。

医療区分2・3の割合は、医療必要度の高い患者をどれだけ受け入れていくかを示す指標だ。療養病棟入院料算定に直結する重要な基準である。当院の状況を振り返ってみると、2017年9月、4病棟全体の「区分2・3」患者割合はようやく60%に達し、入院料2の最低基準である50%を上回ることはできた。この結果を受けてまず取り組んだのが、1病棟に医療必要度の高い患者を集約し、部分的に「区分2・3」割合を80%以上に上げ、入院料1算定病棟を設置することだった。段階的にも入院料1を拡大していくことで、職員に「入院料1は現実的に到達できる目標」だと示すためである。その後、さらに1病棟が入院料1に移行し、残りの2病棟は入院料2として運用した。

そんな中、届いたのが、2018年

# 入院も退院も、 手間いらず。

安心しておまかせいただける理由

1,403施設 約20万床の採用実績

Pマーク取得という信頼性

ISO取得という信用性

導入事例の見学も可能

アフターサポートも万全

株式会社アメニティ  
0120-859-957

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

営業所

旭川・札幌・帯広・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・郡山・高崎・水戸・千葉・さいたま・横浜・新潟・長野・富山・金沢・静岡・浜松・名古屋・新大阪・京都・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島

<https://www.amenity-ss.co.jp/>

「アメニティセット」および「アメニティサポートシステム」は株式会社アメニティの登録商標です。



4月に行われる診療報酬改定で、療養病棟入院料1・2の混在が認められないうという知らせだ。耳にした時点で既に4月に入っており、緊急の月例集会を開催。「全病棟で入院料1にチャレンジする」「全病棟で入院料2に一本化する」、2つの選択肢を示し、将来的に入院料1に統一する可能性を踏まえて前者を選択した。そのための第一歩として「区分2・3」患者を3病棟に集約。残る1病棟は経過措置1として入院料2の90%を算定する方針とした。

4月以降も月例集会を継続し、2018年6月には医療・福祉事業の倒産件数を示しながら、病院も淘汰される時代であることを率直に伝えた。その狙いは、漫然と医療を提供するのではなく、医療必要度の高い患者を受け入れる慢性期治療病院としての存在意義を職員と共有することだ。これらの取り組みが実を結び、病院全体の「区分2・3」割合が安定して80%を超えたことから、同年10月に全病棟で入院料1算定へと移行した。

並行して、この頃から質向上への取り組みを本格化。業務改善委員会を設置し、夜間の不要な指示削減など、医師の業務内容にまで踏み込んだ領域なき改善を推し進めたのである。2019年1月からは残業削減を目的とした業務効率化にも知恵を絞った。

また、「区分2・3」割合が安定して80%を超えたことを受け、月例集会で初めて稼働率に言及したのもこの頃だ。富山県地域医療構想を踏まえ、稼働率92%を最低目標に掲げ、同年3月には病院全体および各病棟ともに「区分2・3」の割合80%以上を達成した。2019年度に入っても病院運営は順調に推移したが、6月には急速な受け入れ増によって病棟師長から入院受け入れ断りの声が上がったため、注意喚起を行った。8月には病院運営が安定したことを踏まえ、地域包括ケアシステム時代に求められる対応としてグループの有機的連携を強化するよう指示。病院全体として機能は向上した一方で、依然として旧態依然とした部署も存在していたことから、改革が全体的に最適化できるよう改めて強調することも忘れなかった。

この頃になると、全病棟の「区分2・3」割合は90%台で安定し、稼働率も当初と比べ上昇傾向にあり、89%にまで高まった。改革の結果、「区分2・3」80%以上、稼働率92%以上が職員にとっての「最低ライン」として浸透したのである。しかし、これはあくまでも通過点に過ぎない。病院がさらなる進化へ踏み出すために。その序章は既に始まっていた。

（第4回につづく）

石川県河北郡津幡町

## 山田耳鼻咽喉科医院

耳鼻咽喉科・アレルギー科



山田 健太郎 院長

【略歴】

2011年 金沢医科大学医学部 卒業  
2013年 金沢医科大学耳鼻咽喉科 入局  
2014年 同 助教  
能登総合病院、穴水総合病院、羽咋病院、  
加賀市医療センターなどで勤務  
2022年 山田耳鼻咽喉科医院 院長  
2025年 山田耳鼻咽喉科医院 新築移転

### 地元で長く愛される 専門クリニックをめざす



「耳鼻咽喉科は聴覚や嗅覚など五感に深くかわかり、その人の生活の質に直結します。同じ疾患でもどういうふうにより日常を過ごしたいか、それによって治療法は人によって違ってきます。まず患者さんの話をしっかり聞くことが大事だと思っています」

2025年10月に新築、開院したばかり。院長の山田健太郎先生は、診療にあたり患者との「最初の入口」を大切にしている。

小さな子どもから80代、90代の高齢者まで患者層は幅広い。対象疾患も風邪からアレルギー性鼻炎、睡眠時無呼吸症候群、難聴まで様々だ。診療内容には、補聴器外来、アレルギー検査、舌下免疫療法、睡眠時無呼吸症候群と専門的な名称が並ぶ。

祖父、父、本人と3代続く耳鼻咽喉科医院。祖父や父の背中を見て育ったものの父や祖父から言われて耳鼻科医になったわけではなく、「自然に」耳鼻咽喉科医の道を選んだそう。

#### 専門性を活かして

新築移転するまでは、現在地から

## 健やかな未来に、潤いを。

### 主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医業経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部  
TEL:076-239-0625  
E-mail: solution@jp-finese.com



[本社/金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092  
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店  
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

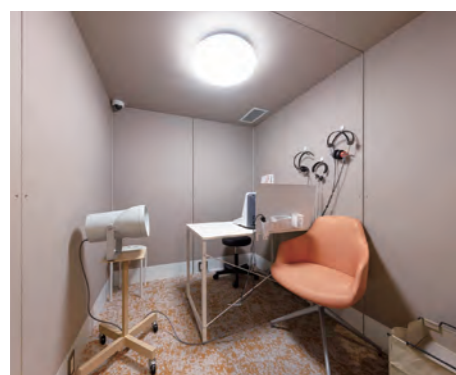
800メートルほど離れた場所に、祖父が開業し、父が引き継いだ旧院があった。2022年、耳鼻咽喉科医として父の跡を引き継いだ山田院長はそこで2年半ほど診療し、あることをきっかけに新築移転を決意する。

「2024年の能登半島地震をきっかけに、津幡町へ移り住まれた方が多くおられました。その中には、難聴でお困りの患者さん多いらっしゃり、当初は院外の補聴器会社をご紹介していました。ただ、補聴器は購入して終わりではなく、聴力検査や調整を繰り返しながら、長く付き合っていくものです。津幡から離れた補聴器店まで通っていたことは、特に高齢の方にとっては、決して楽なことではありません。それならば、身近な地域に、きちんとした検査設備があり、補聴器の調整やその後のフォローまで行える耳鼻咽喉科があった方が、患者さんにとってよいのではないかと、そう考えるようになりました。ちょうどその頃、旧医院が手狭になった事情も重なり、地域の皆さんにより安心して通っていただける医療環境を整えたいという思いから、新築移転を決めました」

聴覚の疾患は「耳鼻咽喉科でしか扱えない」と、クリニックには珍しい防音室を2室完備。最新機器による聴覚検査や言語聴覚士によるリハビリなども行っている。「病院ではなく、クリニックに専門の言語聴覚士がいるところも少ない」と、補聴器外来に情熱を傾ける山田院長の思いがうかがえる。

「アレルギー性鼻炎も睡眠時無呼吸症候群も難聴も、長く付き合っていく疾患です。地元の患者さん一人ひとりと、長い付き合いができるように信頼関係を築いていきたいと思っています」

祖父や父の代から顔見知りの患者も少なくない。地元で親しまれるクリニックへ、新たな一歩を踏み出している。





ファイネス × 医療

# ALL IN for メディカルフェア

2026年 3月8日 日

10:00 ~ 15:30

会場 ▶ ファイネス 金沢本社  
石川県金沢市大浦町ハ55番地

## コンテンツ①

10:30~11:30  
医療機関向け  
経営支援セミナー

MICTコンサルティング株式会社 大西 大輔 氏  
株式会社日本経営 河村 伸哉 氏

## コンテンツ②

13:00~15:00  
診療報酬改定セミナー

株式会社リンクアップラボ 代表取締役  
講師 酒井 麻由美 先生

\*当日はオンラインでのご登壇です

## コンテンツ③

2024年稼働  
ファイネス  
物流センター見学

\*GDP ISO9001対応 災害時対策

## コンテンツ④

展示ブース

電子カルテ・自動受付・Web問診  
予約システム・医療機器 など展示予定

その他お楽しみ企画もあるかも…



詳細版をご希望の方は担当セールスまたは下記メールアドレス  
までご連絡ください。

事務局 seminar@jp-finese.com

医療をデザインする株式会社医心

# ISHIN

business description

各種印刷

WEB制作

デザイン

企画・編集

取材業務

撮影(写真・動画)、編集作業

出版(雑誌、記念誌など)

セミナー・イベント企画・運営

医療学会の企画・運営

テレビ番組企画・編集・制作

広報コンサルティング業務

医療ブランディング

クリニック開業支援

株式会社 医心

〒920-0213 金沢市大河端町東55番3号 tel: 076-203-6613

email: info@project-ishin.net

https://project-ishin.net/



# 変わりゆく医療を

# あなたとともに。

取材にご協力いただきました医療者の方々、ご協賛いただきました企業様に心より感謝申し上げます。  
また、医療情報誌「ISHIN」では私たちの活動にご賛同いただけるスポンサーを募っています。

## Special Thanks

---

### 【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局  
スギメディカル株式会社  
株式会社 DCP ソリューション  
株式会社 石川コンピュータ・センター  
みづほ工業株式会社  
株式会社 ファイネス  
株式会社 アメニティ  
丸文通商株式会社  
株式会社浦建築研究所  
株式会社 福光屋  
増江会計  
株式会社 家元

### 【協賛企業】

料亭 つば甚  
株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス

ISHIN



DLT 木造仮設住宅（珠洲） 設計：坂茂建築設計 施工：株式会社 家元

## 医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

### 石川県

金沢大学附属病院  
 金沢医科大学病院  
 石川県立中央病院  
 金沢市立病院  
 石川県立こころの病院  
 加賀市医療センター  
 公立河北中央病院  
 公立穴水総合病院  
 公立宇出津総合病院  
 公立つるぎ病院  
 公立能登総合病院  
 公立羽咋病院  
 公立松任石川中央病院  
 国民健康保険 小松市民病院  
 市立輪島病院  
 珠洲市総合病院  
 町立富来病院  
 能美市立病院

石川県済生会金沢病院  
 独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院  
 金沢聖霊総合病院  
 金沢赤十字病院  
 独立行政法人国立病院機構 医王病院  
 独立行政法人国立病院機構 石川病院  
 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター  
 独立行政法人国立病院機構 七尾病院  
 社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター  
 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院  
 医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院  
 医療法人社団浅ノ川  
 心臓血管センター-金沢循環器病院  
 医療法人社団浅ノ川 千木病院  
 医療法人社団光仁会 木島病院  
 医療法人社団慈豊会 久藤総合病院  
 医療法人社団 下崎整形外科医院  
 医療法人社団橋会 整形外科米澤病院

医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院  
 医療法人社団博友会 金沢西病院  
 医療法人社団藤聖会  
 金沢メディカルステーション ヴィーク  
 国家公務員共済組合連合会 北陸病院  
 小松ソフィア病院  
 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院  
 社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院  
 医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院  
 医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院  
 特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院  
 特定医療法人社団勝木会  
 やわたメディカルセンター  
 公益社団法人 石川勤労者医療協会  
 城北病院  
 医療法人社団博仁会 小池病院

### 富山県

富山大学附属病院  
 富山県立中央病院  
 富山市立富山市民病院  
 あさひ総合病院  
 射水市民病院  
 かみいち総合病院  
 黒部市民病院  
 公立南砺中央病院  
 富山県リハビリテーション病院・  
 こども支援センター  
 高岡市民病院  
 市立砺波総合病院  
 南砺市民病院  
 公立学校共済組合 北陸中央病院  
 独立行政法人国立病院機構 富山病院  
 独立行政法人地域医療機能推進機構  
 高岡ふしき病院  
 独立行政法人労働者健康安全機構  
 富山ろうさい病院  
 富山県済生会高岡病院  
 富山県済生会富山病院  
 富山赤十字病院  
 医療法人財団恵仁会 藤木病院  
 医療法人社団秋桜 丸川病院  
 医療法人社団尽誠会 野村病院  
 医療法人社団藤聖会 富山西総合病院  
 医療法人財団五省会 西能病院  
 富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院  
 富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

### 福井県

福井大学医学部附属病院  
 福井県立病院  
 市立敦賀病院  
 独立行政法人国立病院機構 あわら病院  
 独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター  
 福井県済生会病院  
 独立行政法人地域医療機能推進機構  
 福井勝山総合病院  
 福井赤十字病院  
 医療法人福井心臓血管センター  
 福井循環器病院  
 医療法人厚生会 福井厚生病院

## 北陸の暮らしに寄り添う家づくり 地域と共に歩む住宅会社です。

私たち株式会社家元は北陸を中心に、

地域の風土と家族の暮らしに根ざした住宅をつくり続けてきました。

令和6年能登半島地震では、被災された方々への仮設住宅提供、応急復旧支援、

物資の集積及び現地支援など多角的な復興活動を展開。

地域再建の力になるため、新たに輪島市堀町にも事務所を開設しました。

これからの暮らしを、地域の皆さまと共に築いてまいります。



GOOD DESIGN  
AWARD 2025

グッドデザイン賞 2025「大賞」

内閣総理大臣賞受賞



IE MOTO

美しい人になる  
家元の家。





## 私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。



地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店



コミュニティスペース

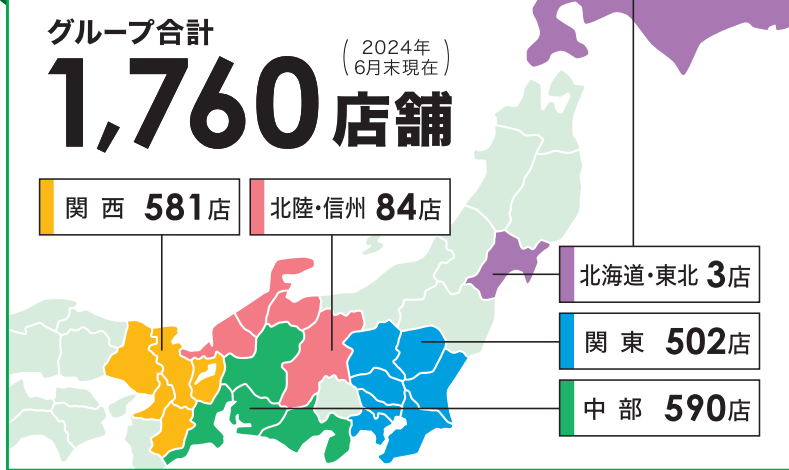
血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします



介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します

中部・関西・関東・北陸・信州・  
北海道・東北に出店エリア拡大中!



■ 全社売上高 (年間計)	<b>7,444.8</b> 億円	前期比 +11.5%
■ 調剤売上高 (年間計)	<b>1,587.8</b> 億円	前期比 +11.5%
■ 処方箋枚数 (年間計)	<b>1,475.9</b> 万枚	前期比 +14.3%
■ 訪問調剤対応店舗数 (年間計)	<b>601</b> 店舗	前期比 +6.4%
■ 訪問調剤患者数 (年間計)	<b>189,109</b> 名	前期比 +7.4%

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索